

我が日本民族をキリストへ

# 日本民族総福音化運動協議会

第17号

## 民族概念と

## 福音宣教



日本民族総福音化運動協議会書記

日之出キリスト教会牧師

行澤 一人  
Inuzawa Kazuhito

「神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。これは、神を求めさせるためであつてもし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。」  
(使徒の働き二七章、二六節-二七節)

### 一 聖書に見る民族概念

この聖句は、民族という概念が福音宣教とどのようにかかわっているのか、という問いを考察するための重要なテキストである。ここで「すべての国」と訳されている箇所は、ギリシャ語本文では「パース、エスノス」となっており、こゝはむしろ「すべての民族」と訳すべきであろう(注1)。ギリシャ語の「エスノス」に対応するヘブル語は「ゴイ」(複数形でゴイム)であり(注2)、この言葉は多くの場合、イスラエル以外の異邦の諸民族を指すものとして使われる。そうすると、使徒二七章二六節でパウロが語っていることは、申命記三三章八節にほぼ対応するものであることが分かる。「いと高き方が、国々(ゴイム)に、相続地(子ハル)に住むために占有された地)

を持たせ、人の子らを、振り当てられたとき、イスラエルの子らの数にしたがつて、国々の民の境を決められた。」(注3)

ここから分かることは、一定の人種のあるいは文化的共通項によつて括られる民族という集合体は、神ご自身が創造されたのであり、その時代(「あらかじめ定められたカイロス」つまり歴史のことである)と境界線(必ずしも「国境線」を意味しない)を定められたのもまた神ご自身であるということである。

### 二 民族概念の聖書的意義

では、なぜ神は、このように時代と境界線を定められた「民族」を創造されたのであろうか? その答えが、使徒二七章二七節に記されている。「これは神を求めさせるためであつて…」とある通り、民族とその文化さらにはそこに定められた歴史は、その民族に属する人々に対する神の啓示であるというのである。別言すれば、神は、それぞれの民族の歴史と文化の中に、ご自分の創造の痕跡を残され、あるいは神へと回帰するための道しるべを標しておら

れるということである。

ここでわきまをしておくべきは、啓示論である。誰であれ、人が救いを得るためには、今や、イエス・キリストの死と復活に信仰によつて結びあわされなければならず、これ以外に救いの道はない。その意味で、救いを得させる「救済啓示」としてのイエス・キリストの啓示は唯一であり、排他的である。しかし、他方、神はあらゆる方法で人間にご自分を示し続けておられる。詩篇一九篇においてダビデは、「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」と語り、神の「自然啓示」の偉大さを歌い上げている。また、パウロもローマ二章二〇節において、自然啓示について語っている。もちろん、自然啓示によつて人は救われないし、完全に神へと至ることはできない。しかし、自然啓示は、人に神を思わしめ、神へと向かわせる大いなる可能性を秘めている。なぜなら、それは神の自己顕示だからである。したがつて、そこに焦点を当てて、そこから効果的に人々を救済啓示へと導くことができるのであり、この点で、自然啓示は、福音宣教の「接点」として



非常に大きな意味を持っているということが出来る(注4)。こうして、民族という概念、またその言語・文化・歴史も「自然啓示」に属するものとして理解することができるのである。

### 三 民族性を重視した福音宣教

このように、福音宣教の接点としての自然啓示のレベルで民族性や文化・歴史というものを理解するならば、民族性を強調することは福音宣教と決して矛盾しない。時に福音の純粹性を志向する宣教運動において、救済啓示の

普遍性・排他性を強調するあまり、民族性の持つ固有性・多様性を嫌う傾向が見られるが、それは自然啓示の占めるべき位置付けが適切に理解されていないからではないだろうか。あるいは靈的純粹さもしくは潔癖さを求めるあまり、固有の民族的信仰表現に対して一様に否定的な態度を取る向きも見られるが、およそ唯一の天的な文化形態もしくは靈的に純粹な信仰表現というのにはあり得ない(大抵の場合、「靈的に純粹」が意味するのは、アングロ・アメリカ的な個人主義的リバイバルズムに範を取るものであるように見える)。聖書的と言ふならば、およそユダヤ人の信仰表現ほど聖書的なものはないはずなのだが、福音宣教の歴史とは、かえってユダヤ的文化形態からの大胆な自由の保障の下(使徒の働き二五章)、聖霊による自在の働きを通じて福音があらゆる民族性や文化に「内在化」されて

いく過程であった。こうして見ると、民族性に無関心であり、その歴史や文化に敵対的な福音宣教によつては、その民族の核心部分に到達して、聖霊が内側から民族性を照射し、変革するという宣教のダイナミズム(注5)を期待し得ず、かえってその社会文化の「外皮」にある程度削り取ることにしかならないのではないか。そして、極論すれば、これが日本宣教二五〇年の現実ではなかったのだろうか。

以上のような分析から私は次のような命題を福音宣教論として提唱したい。すなわち、人が自らの属する民族性・文化を真実に深く探求するならば、そこからキリストへと向かう救いの地平が開かれてくるということ。また、歴史にしても、それが他者によつて語られたものではなく、当該民族が自らのものとして自らの言葉で語ることが出来るならば、そこに自らのために神が予め定められたカイロス、すなわち神の御心と計画が開かれてくるということである。これを現代日本の状況に適用するとき、どのような示唆を得られるのであろうか。詳細は別の機会に譲るが、おそらくそれは容易なことではない。むしろ、民族の瞳に触れることには、激しい抵抗と迫害が予想され、内的な葛藤と靈的な戦いは避け得ないのであろう。しかし、日本の民族的な救いという壮大な夢を本気で見ようとするならば、正面から受け止めるべき挑戦であるのだらう。

【なお、本稿中の聖書の引用は、新改訳聖書(日本聖書刊行会による)】

(注1) ギリシャ語でエスノスという言葉は、一定の人種的・遺伝的要素又は言語的・文化的要素を共有する集団という意味であり、「国」と訳した場合、どう

しても政治的・社会的統合体という日本語のニュアンスが強くなりすぎるので適切ではない。ちなみに日本語の「国」もしくは「国家」のニュアンスに対応するギリシャ語は「ポリテイア」(エペソ二章十二節「イスラエルの国」)であらう。

(注2) たとえば、マタイ十二章十八節が引用するイザヤ四二章二節のギリシャ

語訳がこのような対応関係を示している。(注3) ちなみに、イスラエル(ヤコブ)の子らの数は七〇人であるが(創世記四六章七節)、この数字はおそらく「全部」を意味する象徴的なヘブル語的用法であらう。

(注4) 三人のバビロニア地方の占星術師たちが、「忌むべき」星吉白の示す所によつて、ベツレヘムに生まれたユダヤ人の王メシアであられるお方の下に導かれたことを想起された(マタイ一章)。

(注5) おそらくこのようなダイナミズムを最も良く看取できるのは、ローマ帝国のキリスト教化のプロセスにおいてであらう。

## ジーザス・ジューン・フェスティバル Jesus June Festival

日本民族総福音化運動協議会オープンセミナー

わたしがあなたがたを愛したように、  
あなたがたも互いに愛し合いなさい。 ヨハネ13章3節

**6/1(月) 6:00~8:45pm.**

講師 佐々木満男(国際弁護士)

小澤利夫(シロアムキリスト教会会員、元創価学会本部理事)

音楽ゲスト 泉 堅(シンガー・ソングライター、万座温泉ホテル取締役会長)

**6/2(火) 1:00~3:45pm.**

講師 塚本謙一郎(FGBジャパン会長/国際理事)

小澤利夫(1日でも講演)

講師・音楽ゲスト 岸義弘(JTJ宣教師学校学長)

会場 **なかのZERO・視聴覚ホール**

東京都中野区中野二丁目9-7 Tel.03-5340-5000

参加費 前売り・500円 5月20日以降・1,000円

参加申し込み等お問い合わせ

**JJF実行委員会**

Tel.090-6194-3011 菅野(東京ブロック長)

Tel.&Fax.03-3302-1860 森(東京副ブロック長)



## ブロック活動レポート 関西ブロック

日本民族総福音化運動協議会・  
京都地区発足式

京都グローリーチャーチ  
吉田 義則



去る、三月二日(月)京都市右京文化ふれあい会館において、日本民族総福音化運動協議会関西ブロック・京都地区発足式が行われました。

関西ブロックに属しつつ、京都にある教会が中心となつて草の根運動を展開すべく京都地区が建て上げられたのです。総裁の奥山実師や、関西プロ

ク長の淀川キリスト栄光教会山中正二師を始め、多くの教職者の方々も参加され京都地区の発足を祈りました。

日の出キリスト教会の行澤先生の総合司会のもと、京都グローリーチャーチの賛美チームによる賛美で発足式ははじまりました。

深い主の臨在の中、総裁の奥山実師によりマタイの福音書二四章二四節から奨励があり、二同心燃やされ日本民族総福音化のために立ち上がる時となりました。

会場を埋めた約半数は、二〇代、三〇代の若者でした。

日本宣教のため、日本のリバイバルのため、若い人の心に植えられた福音の種は必ず芽を出し、実を結び、刈り取るでしょう。

「我が日本民族をキリストへ」の願いを込め会場は熱い祈りの場となりました。

二〇〇五年六月に「日本民族総福音化運動協議会」が発足し様々な活動が各ブロックで行われてきました。

関西ブロックは大阪の教会を中心に、京都、滋賀などの教会も加わり定期的な集会が行われ、賛同者も増えてきました。そこで、今回、京都グローリーチャーチの吉田義則牧師を地区長・神足キリスト教会の齊藤恵子牧師を会計とし京都地区の活動が始まりました。

プロテスタント宣教二五〇周年を記念する二〇〇九年に、日本民族総福音化運動協議会関西ブロック京都地区が発足したことは、京都のみならず、

日本の霊的風土に「石を投じる神様の大きなお働きであると信じております。主が士師ギデオンに語られたように「あなたのその力で行き、イスラエルをミデアン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」(士師記六章二四節)

神様が願われている働きは、「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によつて」を実践することだと確信します。

今回京都地区に与えられた祈りの輪をはじめとし、いよいよ神様に従い日本民族総福音化のために、との思いでいっばいです。京都地区を用い、栄光をあらわされるのは聖霊なる神様です。日本民族総福音化運動協議会の歩みを主に委ねつつ……

## CGNTVに日本から無給献身者を



東北ブロック副ブロック長  
坪井 永人

日本民族総福音化のために、メディア宣教、特にテレビ、インターネット等は必須の宣教手段である。日本にも様々なメディア宣教団体があるが、近年、日本に二四時間放送の無料テレビ放映をしているのが、韓国オンヌリ教会(ハ

ヨンジョ牧師)のCGN(クリスチャングローバルネットワーク)である。六つの衛星放送を駆使して、全世界を網羅している同局の働きは、世界の宣教史上、特記されるべき働きであるが、特に日本民族総福音化運動にとつては、欠くべからざる宣教手段である。

私は、こう信じている。主が、日本総福音化のために、ハ師に命じてこの働きを日本に与えてくださったと。まさに、地を平らげる力を持ったリバイバルの業である。しかし、それを受

けとらねばならないのは、日本の教会である。ハ師の献身を待つべくよりも、日本の教会自身が与えられた恵みとして、この業に献身すべきである。

しこうして、私は日本の宣教者達に呼びかける。今、この業のために、命を捨てて献身する者よ、起これと。まず自身が献身をしよう。利己を捨て、CGNに無給献身者を送ろう。昨年よりCGNTVに無給奉仕者を送り、番組制作に参加させていただき、それが自教会のメディア宣教力をも向上させている。日本の緒教会から、幾

名かでも献身者を送るならば、莫大な犠牲を払って日本のため献身しているCGNをどれほど助け、励ますことであろう。否、CGNを助けるためではない。主の与えたもう宣教のチャンスの命がけの祈りでもある。いつの日か、日本側でCGNレベルのTV局を作らんとして、先年J&TV(ジーザスジャパンTV)を建て上げた。無給献身者の東京での指導支援をもその働きの一部と考えている。主の促しを聞きし者よ。この旗の下に集まれ。(連絡先・09070795011坪井永人)